

令和4年度 第1回 総合教育会議 議事録

日時：令和5年1月25日（水） 14：00～14：40

場所：裾野市役所 401 会議室

出席者：市長 村田 悠

教育長 風間忠純 教育委員 眞田平芳 教育委員 桃井昭一

教育委員 庄司伸子 教育委員 神戸寿恵 教育委員 根上泰子

副市長 及川涼介

【市長戦略部】

市長戦略部長 鈴木 努 戦略推進課長 勝又博文

【教育委員会】

教育部長 勝又明彦 教育総務課長 服部和彦 学校教育課長 渡邊 清

生涯学習課長 古谷伸導 学校教育課長代理 庄司勝彦 学校教育課 加藤美紀

教育総務課 渡邊千秋

傍聴人 14 名

教育部長

ただいまから裾野市総合教育会議を開会いたします。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の総合教育会議では「部活動の地域連携」について協議させていただきます。今まさに教育界で直面している問題について、市長をはじめ市長部局の皆様と共有していきたいと思っています。

それでは、本会議の主催者であります村田市長からご挨拶を申し上げます。

市長あいさつ

皆さんこんにちは。本日は、お忙しい中「裾野市総合教育会議」にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

この総合教育会議は、教育委員会と連携をしながら、裾野市として講ずるべき教育に関して協議させていただく重要な場でございます。

本日は「部活動の地域連携」について協議させていただきます。部活動の地域連携、あるいは移行については、教員の負担軽減、受け入れ先や指導者の問題など、大変大きな話題となっております。また、中学・高校の生徒たちにとって、部活動は仲間づくり、とい

う面でも大きな役割があるかと思われます。

私自身、中学校のときは幼少のときから続けていた剣道を、外部の団体に所属し練習していました。やはり剣道部がなかったので、希望する競技ができなかった、ということがありました。部活動と地域の連携は、生徒たちの希望を叶えるためにも、今後もっと重要になるかと思われます。

未来の裾野市を担う子どもたちのために、引き続き皆様方のお力添えが必要だと思っています。

部活動というのは、運動も文化活動も体を動かすだけ、楽器を吹くだけ、というものではなく、人間関係や上下関係が生まれ、そこで我慢などいろいろなことを覚えて、将来自分がどういう人間になっていくか、学校の勉強だけでは考えられないような、非常に大事な知育の場であると私は思っています。部活動は大事な教育の場だと思っていますので、教育委員の皆さまにはどうしていけばいいか、忌憚ない意見をいただければと思います。どうぞよそしく願ひします。

教育部長

それでは、これから議事に入ります。議事進行につきましては、裾野市総合教育会議運営要綱第4条によりまして、市長が行うこととさせていただきます。

なお、議事録を作成するため、会議の状況を録音させていただきます。

それでは、市長よろしく願ひいたします。

市長

それでは、要綱の定めによりまして、座長を務めさせていただきます。早速、議事に入ります。

「議事1 部活動の地域連携について」を議題といたします。

この度、平成30年に策定された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が、令和4年夏に取りまとめられた部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、統合した上で全面的に改定されました。

これにより、令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」として、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方が提示されました。

教育長は、このガイドラインを読まれて、どのようにお考えでしょうか。

教育長

よろしく願ひします。

先ほどの市長の話にもありましたが、部活動は、生涯にわたり子どもたちがスポーツや文化芸術活動に継続して親しむ機会を与えるものであります。

また、異年齢の生徒や同好の友人と協力して活動する機会が得られるものでも

あります。体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師との好ましい人間関係の構築を図る、あるいは、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養がなされるなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を発揮してきた、と捉えています。しかし、部活動は教師の献身的な支えにより成り立っており、そもそも部活動の地域移行の話は、教師の働き過ぎを緩和しよう、という観点から派生しました。

そこで、国やスポーツ庁、文化庁は部活動の地域移行を行うことを意図してガイドライン等作成してきているわけですが、裾野市においては、以前より先生たちを抜きにした部活動運営は非現実的であると考えていました。裾野オリジナルの部活動改革はないか、と探っているところです。

市長 ありがとうございました。

では、本日、裾野市としての部活動改革について、生徒のみなさんにスポーツや文化芸術活動の場をどのようにして確保するかという点で、協議をさせていただきたいと思います。

まず、担当課から説明を求めます。学校教育課長お願いします。

説明者：学校教育課長

それでは、国の指針を受けて、学校教育課が考える「部活動改革」について説明します。

教育長がおっしゃるとおり、裾野市においては、以前より教員たちを抜きにした部活動運営は非現実的であると考えていました。

現在は、国の指針としても、教師抜きでは部活動改革は進まないという現実を認め、教師のリーダーシップを残したままで進めることもありうるという方向に転換したため、引き続き学校と地域とが連携して部活動改革を進めていきたいと考えています。

部活動改革について考える際には、生徒に体育的・文化的環境を整えるということを第一に考える必要があります。

登録制の人材バンクを構築し、人材バンクから地域の人材を外部指導者として迎え、ゆくゆくは部活動指導員として地域との連携を取りながら、スポーツや文化芸術の指導を受ける体制を整えていきたいと考えています。生徒が地域の教室へ出向いて学ぶことも考えられます。また、拠点校方式の合同部活動も検討する必要があります。各学校の部活動も適正な人数の部活動が維持できるように、検討していく予定です。

裾野市の部活動を維持していくためには、スポーツ協会や文化協会の参画が不可欠であり、外部指導者と学校との調整をするコーディネーターの配置も必要です。さらに、教師の勤務時間外の活動を保障するためにも、スポーツ・文化芸術活動を担う NPO 法人、仮称ではありますが「すそのアクティブ」の設立が必要であると考えます。

以上、学校教育課の考える「部活動改革」についての説明を終わります。

【意見等】

- 市長 ただいま、学校教育課より「部活動改革」についての説明がございました。
ここで少し、私の考えをお話しさせていただきたいと思います。
少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要があると思います。部活動の地域連携に当たっては、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できる、地域の実情に応じたスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消していくことが望ましいと思います。自分が生まれた環境によりできない競技・体験が生じることは望ましいことではありません。子どもたちに何を体験の場として与えてあげられるか、気づきを与えてあげられるか、正しい指導者というか、憧れられるコーチや監督陣を付けてあげられるか、それが大人である私たちの仕事であって、「裾野に生まれてよかった。」、親御さんは「裾野で子育てしてよかった。」と提供いただけるようなフィールドづくりが必要ではないかと思っています。市民総出でスポーツや文化活動を盛り上げる都市でありたいと考えます。
そのうえで、皆様には地域連携に関して、心配される課題等がありましたら、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。
- 委員 文科省より、令和5年度から令和7年度の3年間で「改革推進期間」と示されていますが、保護者や地域にどのように情報発信されているのでしょうか。
- 市長 桃井委員からご質疑ありました。担当課ではどのように考えているのでしょうか。
- 学校教育課長 まだ、地域に対し情報の発信というのは十分に行われていない状況です。現状では、昨年12月に小学校4年生～6年生とその保護者、中学校1年生～3年生とその保護者を対象に、部活動の地域移行についてのアンケートを行いました。新聞等のニュースでも取り上げられている話題ですので、関心は高いと思われます。まずは、児童生徒とその保護者のニーズについて情報を収集し、地域への情報発信方法を含めたこれからの部活動改革に生かしていきたいと考えています。
- 市長 はい。ありがとうございます。他にありますか。
- 委員 部活動の地域との連携が進んだ場合、指導料や生徒の送迎など保護者負担の増加が考えられます。これについてはどうでしょうか。
- 市長 保護者の負担が増えるということ、今は共働き世帯も多いですからね。私も競

技人生が長く、両親がよく大会に来ていました。父母会や炊き出し等もあり負担もあったろうな、と思います。

気になると思います。その点、担当課どうでしょう。

学校教育課長 さきほどのアンケートの結果によると、小中学生の保護者が費用負担できる金額は月 2,000 円程度と答えています。経済的な格差によって、活動に参加できないことがないように、まだ国からの補助金についての明確な通知がないので、詳細な設計ができないが、検討していく課題となりますが、国の補助金等の支援を受けながら対応策を考えていきたいと考えています。

委員 学校管理下の部活動では、先生方の負担軽減も考え、生徒の健康を守り、スポーツや文化活動を楽しめる心と体を守るための活動時間の目安が定められていると思います。地域と連携した場合は、勝敗を意識したハードな練習が行われることが考えられます。そのため、活動時間を守ることに対し、ルーズになるようなことが心配されますがいかがでしょう。

学校教育課長 国・県の部活動ガイドラインに沿った裾野市の部活動ガイドラインを策定しています。その中で、活動日は「平日 2 時間以内、休日は 3 時間程度で、週あたり 2 日以上以上の休養日を設ける。」としています。生徒の心身の健康を考え、生徒の負担が重くならないような活動をしなければならないと思います。現在、市内の中学校の部活動の、平日の活動日数は 4 日ですが、活動時間の確保について熟考しながら、活動日数についても検討中です。地域連携した場合についても、ガイドラインに沿った活動内容になると思います。

市長 地域連携の後も、ガイドラインを守りながら部活動運営をしていく、と説明がありました。

庄司委員・神戸委員・根上委員には中高生のお子さんがいらっしゃるかと思いますが、お母様の立場として気になるところが何かありましたらお願いします。

委員 部活動の地域連携をした場合、何か事故や問題が起きたとき、責任の所在や報告の窓口はどうなるのでしょうか？新たに保険加入等の必要があるのかも気になります。

市長 事故やけがについては保護者の皆様が一番心配していることだと思います。

学校教育課長 部活動中の事故やけがは教育活動の一環として、スポーツ振興センターの保険に加入しています。外部指導者もスポーツ安全保険への加入を検討しています。

また、NPO 法人が設立されれば、相談窓口として機能できると考えています。その時は、法人を中心として指導者にはスポーツ安全保険に加入をお願いすることになると思います。生徒についても同じく保険等の準備を考え、事故等にスムーズに対応できるようにしたいと思っています。

市長 絶対に必要なことだと思います。ひょんなことから骨折なんてこともありますからね。
他にいかがですか。

委員 今の説明に NPO 法人の話が出ていて、最初の説明にも NPO 法人の設立により教員の勤務時間外の保障がされる、とありました。先生方の兼職兼業についてはすごく賛成ですが、内容を慎重に精査する必要があると思います。例えば、生徒の保護者に「参加してほしい。」と強く頼まれたり、他の先生方から「やれ。」と強制的に求められたり、兼職兼業しなかったらやる気がない先生だ、と思われたりすることもあると思います。偏見の目が向けられたりしないように、規則を整えて、多くの方にシステムをしっかり周知する必要があると思います。

市長 ありがとうございます。
学校の先生方がこういったことで差別されることはあってはならないと思っています。兼職兼業の制度についてですね。経験のない競技を担当させられるというのは、教えなければいけない先生にとっても、教えてもらう生徒にとってもこれほど不幸なことはないと思うし、先生とは本当に大変な仕事だなといつも思います。特殊性のある剣道などは特に、経験のない先生が教えると、ただのタコ踊りみたいになってしまいますから、かわいそうだな、と思います。兼職兼業については詳しく決まっているのでしょうか。

学校教育課長 国は、意欲ある教師との円滑な兼職兼業とうたってはいますが、国からの制度の運用については手引きが今後示されると思います。国・県の手引きを受けて、詳細を考えていきます。

市長 わかりました。ありがとうございます。他にございますか？

委員 兼職兼業についてはこれからだ、とのお話でしたが、学校の先生方にはこれまで本当に素晴らしい指導をしてくださった先生方がたくさんいます。ぜひ、そういった先生方の経験が引き継がれるよう、兼職兼業の先生の待遇を手厚くするなど、兼職でやっていきやすい制度ができあがるといいな、と願っております。

地域連携・地域移行の早期実現を目指す、とありますが、外部指導者の人選に対し、急ぐあまり、人材バンクに登録があれば即採用するのではなく、適正な見極めと採用後の継続的に支援していくような研修や講習などの制度ができあがっていけばいいと思います。

市長 ありがとうございます。まさにそのとおりだと思います。部活動というのは教育的な意味も持ちますから、ただ競技の指導をすればよい、というわけではないと思います。採用したらそれで終わり、というのではなく講習等があるべきだと思います。人間としての厚みも重要になってくるかと思います。
ありがとうございます。今の講習等について担当課からどうでしょう。

学校教育課長 NPO 法人が立ち上がったから、人材バンクに登録していただく方については、単に技術があるかではなく、思春期の子どもたちと関わる、教育の一環を担うということもありますので、しっかり面接等を経て、指導についていただく流れを構築していく予定です。
また、一度面接したから、登録したからいい、というわけではなく、そのあとも研修等、適切な指導を行っていきます。

市長 わかりました。他にご意見ありますか。

委員 人材バンクの話ですが、指導者を雇用するとなると、指導者へ謝礼の支払いも発生すると思いますが、予算の見立てはどうなんでしょう。

市長 どうなんでしょう。予算の見立ては。

学校教育課長 まず、外部指導者は市費ですべてまかない1時間800円の謝礼、部活動指導員には国・県・市で1/3ずつ出し、1,320円の報酬をお支払いしています。外部指導者25名分、部活動指導員3名分の予算の確保をしていますが、今後人材バンクを活用し、増員を考えています。コーディネーターの配置・人も大幅に今後増やすとなると、体制が整った概算で2,000万円は必要になってくるかと思われます。

委員 今、謝礼が1時間800円とのことですが、これはボランティアという意識なんでしょうか。最低賃金よりかなり少ないですけど…800円ですか。他の市町はどうなんでしょう。

学校教育課長 ボランティアの意味合いは強いです。学校教育課としては感謝を申し上げるしかないのですが、謝礼の金額の見直しも検討したいと考えています。協力して

くださる方々の活動の保障を確実なものにしなければならないと考えています。ゆくゆくは部活動指導員としてご活躍いただけることを期待しています。他の市町のことですが、静岡市はホームページで公開していて外部指導者には1,000円・部活動指導員には1,600円でした。

委員 先ほど市長がやりたいことができる部活動、そういう裾野市でありたい、とお話がありました。その金額だとほとんどの方が子どもたちのために、という意識で、ありがたい考えで参加してくださっていると思いますが、それでも800円だと集まりにくい、いろいろな指導者を集めるのはかなり難しいと思うので、それは検討していただきたいです。

市長 教育長と一緒に話し合います。よりよいものを提供するためにはそれなりにかかる。おかしな公共投資にかけるのであれば、将来ある子どもたちにかけてあげたい。床から人へ、建物にお金をかけるような行政ではなく、将来この街に生まれ育った、裾野市出身と言ってくれる全国で羽ばたく子どもたち、またこの故郷を守ってくれる子どもたちにどれだけのことをしてあげられるかが大人の責任だと思っているので、適正なものを考えていきます。

教育長 部活動の外部委託というのは社会の方々がどれくらい良い指導を子どもたちにしていただけるかにかかっている部分があり、それがやりやすいような環境整備をぜひお願いしたいと思います。

市長 ありがとうございます。他に…

委員 外部指導者や部活動指導員、そして兼職兼業教員の配置等、実際の指導料等の予算が確保できなければ、人材を募集しても採用までいかないということになってしまいます。指導料等の予算について、市長はどのように考えていますでしょうか。

市長 今の協議を聞いて、部活動の地域連携を進める人材バンクの設置は進めていかなければならないと思います。今後、国や県の予算の割合も具体化してくると思います。他の市町は進めているのに自分たちはやっていない、というのはあってはならないと思っています。むしろ自分たちの街の子どもたちによりよいものを受けさせてあげたい、自分の街の子どもたちが一番幸せであるべきだ、ということ全国に先駆けてやるのが私の仕事だと思っています。皆様の期待に応えられるよう前向きに進めていきたいと思っています。

委員 ぜひお願いします。

市長 他にどうでしょう。よろしいでしょうか。

委員 人をどう集めるかですよね。やりたい、参加したいと思ってくれる方を。

市長 裾野市は指導者がけっこう集まっていると思います。いろいろな企業もあるし、いろいろなスポーツや楽団などの経験者もいます。文化的にもスポーツ的にも非常に成熟した街であると思います。そういう人たちが、将来街を豊かにする人材を育てるといふところにどういう喜びを感じてもらえるか、という仕組みをどう作るかということが大事だと思います。人材バンクによる事例もできてきていると思いますのでどんどん参考にしていけばいいと思います。しっかり進めていきたいと思っています。

まだお時間ありますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、様々なご意見ありがとうございました。

今までの協議を聞いて、部活動の地域連携を進めるために、人材バンクの設置・地域と学校を調整するコーディネーターの配置・そして予算の確保、これは急務と思っています。前向きに進めていきたいと思っています。そして、学生時代にスポーツや文化芸術活動に触れた子どもたちが、その後の生涯に渡って健康的で文化的な生活を送り、豊かな人生を送っていただける裾野市民になってもらいたい、という思いです。学生時代に、部活動・バイトなど何かに打ち込んだ子の人生は幅が広がり厚みがでて、より豊かなものになると信じています。そしてそこで、忍耐や我慢、社会構造などを覚えてから社会に放たれば、挫折することもないのでは、と私自身は思います。この「部活動改革」「すそのアクティブ」については、スポーツ協会・文化協会や市内で活動されてる各種クラブチーム、実業団チームなどを交えて継続的な協議が必要かと思われます。今後の方向性など、また決まり次第、教育委員のみなさまに報告させていただきます。教育委員のみなさまには、引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

他に何か、ご意見等はございませんか。

ないようでしたら、議事についてはこれで終了といたします。進行を教育部長に戻します。

教育部長

ありがとうございました。

皆様方から、何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは本当に貴重なご意見、皆様ありがとうございました。なお、本日の議事録につきましては、市のホームページに掲載し、市民の皆様へ情報発信をさせていただきます。

以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

14時40分 会議終了